

口銀谷町並みガイド (予約制)

・ご予約・お問い合わせはこちらまで
生野町観光協会 079-679-2222



生野義挙碑

文久3年(1863)10月に起こった生野の変に参加した勤皇の志士たちを偲び、昭和15年(1940)、かつての生野代官所跡地に建設されました。



生野書院

林材商の邸宅を改修した郷土資料館。明治初期の絵図や古文書、鉱山関係資料など常設展示しています。また、施設の正門は、旧鉱山長社宅の正門を移築したものです。(入館無料)



一里塚跡

寛永17年(1640)に生野代官所により設置されました。播磨と但馬の国境の基点。ここから岡宮町中瀬、青垣町遠坂の間に1里(約4km)ごとに塚が作られました。



トロッコ道

大正9年(1920)、金香瀬坑道から旧駅までの市川沿いに鉱石輸送のための電車専用道が建設されました。岩の間をつなぐ石垣のアーチが特徴です。



石川醤油店

元庄屋宅。大正時代から醤油屋を営む。醤油蔵は大正時代建築。母屋にある八角形に縁取られた窓が特徴。



JR生野駅

明治28年に、播磨鉄道として飾磨～生野間が開通。その後、明治39年に和田山まで開通。当初駅舎は、今の位置より北側に位置していましたが、和田山までの延伸により、現在の位置となりました。北側からの勾配の関係上、全国的にも珍しい右側通行の駅となっております。



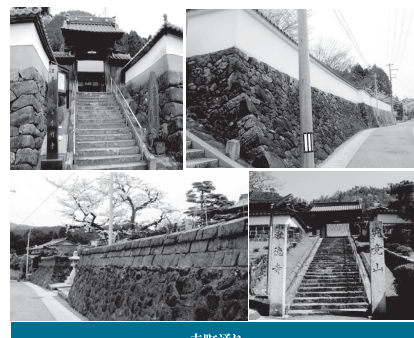
ハヤシライス (レトルタイプ)

味は、30年代と40年代の2種類ご用意しております。お土産にぜひどうぞ！

北

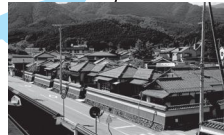
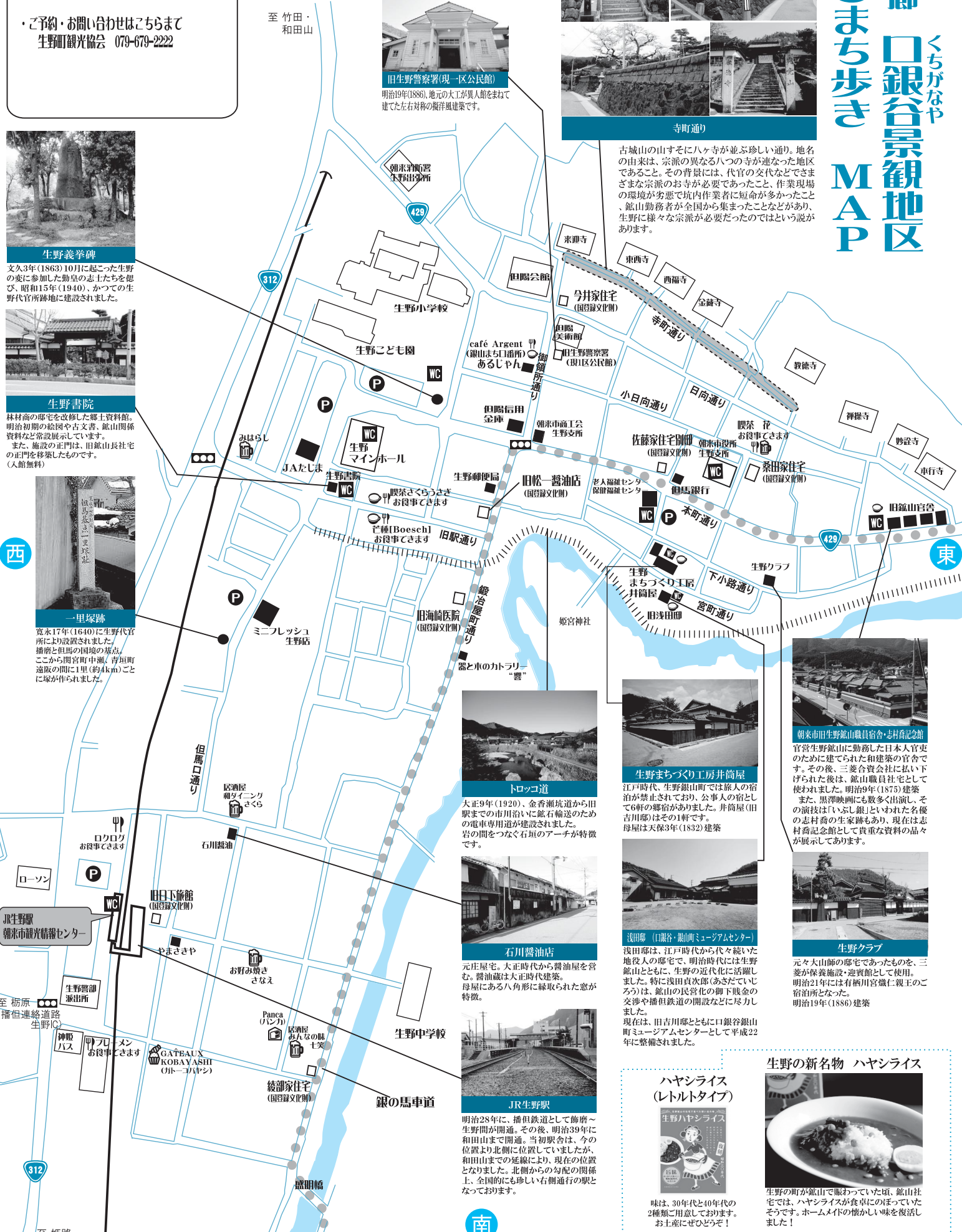
銀山まち回廊 口銀谷景観地区

駅からまち歩き MAP



寺町通り

古城山の山すそに八ヶ寺が並ぶ珍しい通り。地名の由来は、宗派の異なる八つの寺が連なった地区であること。その背景には、代官の交代などでさまざまな宗派のお寺が必要であったこと、作業現場の環境が劣悪で坑内作業者に短命が多かったこと、鉱山勤務者が全国から集まったことなどがあり、生野に様々な宗派が必要だったのではという説があります。



朝来市生野鉱山職員宿舎・志村高記念館
官営生野鉱山に勤務した日本人官吏のために建てられた和建築の官舎です。その後、三菱合資会社に払い下げられた後は、鉱山職員社宅として使われました。明治9年(1875)建築。また、黒澤映画にも数多く出演し、その演技は「いふし銀」といわれた名優の志村喬の生家跡もあり、現在は志村高記念館として貴重な資料の品々が展示してあります。



生野クラブ
元々大山師の邸宅であったものを、三菱が保養施設・迎賓館として使用。明治21年には有栖川宮熾仁親王のご宿泊所となった。明治19年(1886)建築



生野まちづくり工房井筒屋
江戸時代、生野銀山町では旅人の宿泊が禁止されており、公事人の宿として6軒の郷宿がありました。井筒屋(旧吉川邸)はその1軒です。母屋は天保3年(1832)建築



浅田邸 (口銀谷・鉱山ミュージアムセンター)
浅田邸は、江戸時代から代々続いた地役人の邸宅で、明治時代には生野鉱山とともに、生野の近代化に活躍しました。特に浅田貞次郎(あさだていじろう)は、鉱山の民営化の御下駄金の交渉や播磨鉄道の開設などに尽力しました。現在は、旧吉川邸とともに口銀谷銀山町ミュージアムセンターとして平成22年に整備されました。



石川醤油店
元庄屋宅。大正時代から醤油屋を営む。醤油蔵は大正時代建築。母屋にある八角形に縁取られた窓が特徴。



JR生野駅
明治28年に、播磨鉄道として飾磨～生野間が開通。その後、明治39年に和田山まで開通。当初駅舎は、今の位置より北側に位置していましたが、和田山までの延伸により、現在の位置となりました。北側からの勾配の関係上、全国的にも珍しい右側通行の駅となっております。



ハヤシライス (レトルタイプ)
味は、30年代と40年代の2種類ご用意しております。お土産にぜひどうぞ！

南